

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

☆最初のISS構成要素打上げから2020日経過しました

☆第9次長期滞在クルーのISS滞在は42日経過しました

☆ISS動向

ロシアのプログレス補給船(14P)は日本時間5月27日午後10時55分にISS後部のズヴェズダ(ロシアのサービスモジュール)とドッキングし、ISSに滞在しているふたりのクルーに約2.3トンの食料、水、燃料、予備部品や補給物資を届けました。

第9次長期滞在クルーのゲナディ・パダルカ、マイケル・フィンク両宇宙飛行士は、プログレス補給船(14P)から荷下ろしを行っています。

また、ふたりは6月中旬に行う予定の船外活動の準備を行っています。この船外活動の主目的は、コントロール・モーメント・ジャイロ(CMG)No.2の停止の原因となった遠隔電力制御モジュール(RPCM)の交換です。



エクササイズを行うパダルカ宇宙飛行士



ズヴェズダ内のフィンク宇宙飛行士



ズヴェズダで作業を行うパダルカ宇宙飛行士



ロシアのOrlan宇宙服の点検を行うパダルカ宇宙飛行士

“今週の「きぼう」”

☆船内保管室の寸法計測

筑波宇宙センターでは5月28日から6月2日にかけて、「きぼう」日本実験棟の船内保管室実機の寸法計測が行われています。

これは、機器と機器を結合させるインターフェース部分が正しく結合できることや、スペースシャトルに搭載する作業および軌道上での組み立て作業が正しくできることをコンピュータ上で検証するためのデータ取得です。

船内実験室については2003年10から11月にかけて米国ケネディ宇宙センターで同様の計測を行っています。

今回もNASAから計測機器を持ち込んで作業を進めています。



“トピック”

☆金星の太陽面通過

6月8日午後2時11分から、金星が太陽面を横切る現象が日本全国から観測できます。

この現象は、地球と太陽の間を金星が通過するために、太陽の表面を黒い影となって動いて見える現象で、日本では130年ぶり、世界的にも122年ぶりという天体現象です。

金星が太陽の縁に接する第1接触が午後2時11分、太陽の縁の内側に金星がすっぽりと入り込む第2接触が午後2時30分頃となります。

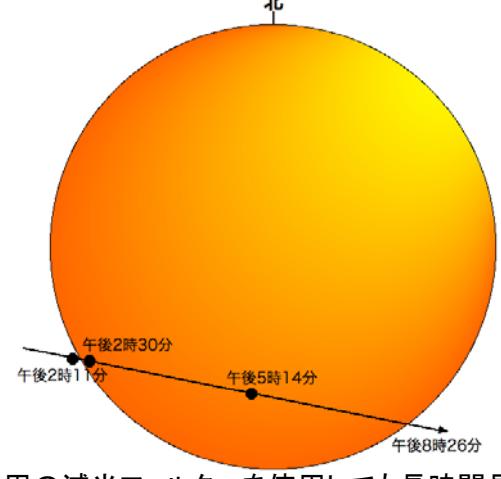
その後、金星はゆっくりと太陽面を動いていき、午後5時14分に太陽の中心に最も近づきます。現象の終了は午後8時26分頃になりますが、金星が太陽面を通過し終わる前に日は沈みます。

今回の現象は平日の午後から日没まで続きますので、学校や職場などで観望会を開かれてはいかがでしょうか。

なお、太陽を観測する際は、絶対に直視しないようにし、太陽観測専用の減光フィルターを使用しても長時間見ないようにしましょう。天体望遠鏡で白い紙などに投影する方法が安全で、同時に複数で見られるので便利です。望遠鏡を太陽に向けるときは決して望遠鏡を覗かず、地面の方を見て望遠鏡の影が一番小さくなるようにします。

次回は8年後の2012年6月6日、その次はさらに105年後の2117年12月10日で、日本からも観測できます。

万一天気が悪かったら次回に期待しましょう。 詳細は[こちら](http://www.nao.ac.jp/pio/v20040608/)。



問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール kibo-pao@jaxa.jp

Wi-Fiクリーニュースマーリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼうWi-Fiクリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本Wi-Fiクリーニュースから転載した旨を記述ください。